

# 輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

※申請者名：紀北川上農業協同組合、品目：柿

## 1. 輸出における現状と課題

### 【現状】

J A 紀北かわかみは、柿生産量が日本一の和歌山県において、トップの年間約 2 万トンを生産している。当 J A は、タイ、香港、マレーシア等のアジア諸国を中心にたねなし柿（刀根早生柿、平核無柿などの渋柿）や富有柿を輸出しており、昨今では、JETRO や和歌山県との協働により、輸出解禁された米国向けに日本で初めて輸出を行うなど、海外市場の需要を取り込み、農家所得の確保や地域農業の維持・発展に向けた取組を実施している。

### 【課題】

収穫から販売までの期間が長い船便輸送において、軟化や果皮に黒変が生じる場合があり、鮮度保持技術を早急に確立していかなければならない。また、世界的に食品安全や環境保全等への関心の高まりや、それらの規制強化の動きがある中、国際的な基準を満たす GAP 認証や HACCP 認証を取得し、海外市場に対応した産地づくりを総合的に進めていく必要がある。

## 2. 輸出事業計画の取組内容

### 【生産面】

・当 J A が営農事業を行っている柿園地でグローバル GAP 取得し、輸出専用のモデル園地として活用。GAP 研修会などを通じて、生産者の GAP に対する意識の向上を目指すとともに、食品安全、労働環境、環境保全に配慮した持続的な農業及び輸出拡大を推進。

### 【流通面】

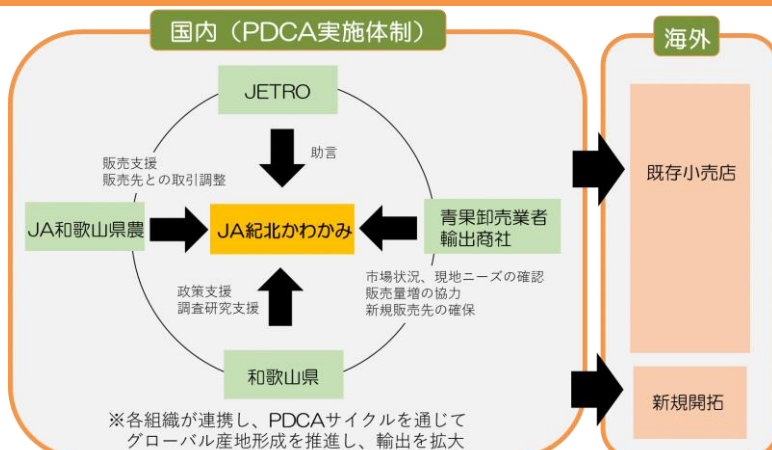
・全ての選果場（マルい選果場、マルガク総合選果場、妙寺総合選果場、かつらぎ中央総合選果場、ヤマハシ総合選果場）での HACCP 認証取得により、衛生管理体制を構築し、輸出先国・地域の小売や青果卸に対して、有利販売を実現。

・県かき・もも研究所との連携により、長距離海上輸送における最適な輸送条件を見出し、鮮度保持の向上に向けた流通体制を構築し、海外市場のニーズに合う高品質果実を供給。

### 【販売面】

・既存及び新規取引の海外バイヤー等を招へいし、生産現場の確認、テスト販売などにより、輸出を拡大。

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



## 4. 輸出目標額

令和元年度輸出実績： 28,263 千円

令和5年度輸出目標： 43,000千円

輸出先国： タイ、香港、マレーシア、シンガポール、米国